かれんと
No.22
2003.3.25
Current:カレント
時代の流れあるいは
新しい潮流

かけがえのない自分

見つめてみよう　わたしの性

命あるものは、子孫を残すために、「性」の営みを繰り返してきました。

しかし、人間にとっての「性」は他の生き物とは違った意味を持っています。恋愛、コミュニケーション、癒し、おもいやり、快楽…

「性」とはその人の生き方そのもの。自分にとっての「性」と、真剣に向き合ってみることも大切なことではないでしょうか。

性情報の氾濫、HIVなどの性感染症の広がり、初交年齢の低年齢化。

青少年の性行動が問題になっています。

今回「性」の問題の改善に向けた様々な取り組みについて取材しました。

親子で話し合えるきっかけとなれば、幸いです。

主な内容

- 県の取り組み
- 北押原中の取り組み
- 家庭教育学級
- 思春期相談センター
- 栃木県海外研修報告
- ひとくちメモ
- 市民のつどい
- 標語入選者
- 編集後記

※「かれんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。

青少年の性は？

課題は山積み

現状

性情報の氾濫（はんらん）・性意識・行動の多様化 ⇒ 性交経験のある身近な友人に遅れをとりたくないとの欲求が性行動を加速化。異性といるのが楽しい。性交についてお互い納得すればよい。 ⇒ 初交年齢の低年齢化 10代の妊娠中絶・性感染症の増加

課題

具体的な正しい情報提供・指導が必要

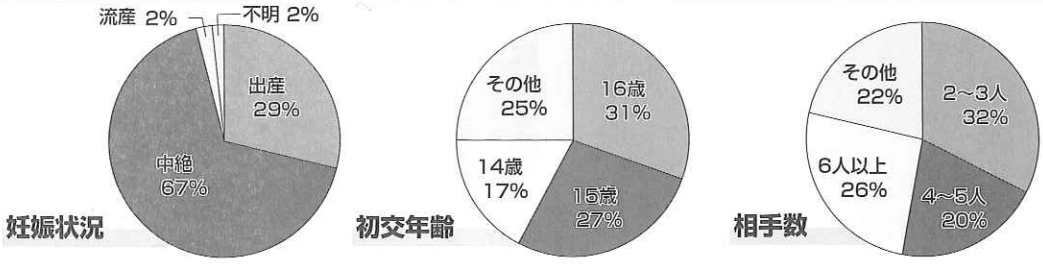
性行動・性感染症の早期教育・保護者への実態周知。望まない妊娠を防ぐための具体的な避妊教育、人工妊娠中絶の危険性、性感染症の正しい知識・予防教育が必要。

県の取り組み

- ＊同年代の仲間のピアカウンセリングによる指導を県内全域に定着
- ＊思春期相談センター「クローバーピアルーム」の開設
- ＊「思春期の性」「思春期における保健対策」をテーマに子どもたちや保護者を対象に各種講演会を開催
- ＊保健、教育、医療、福祉などの関係機関の連携化を図るためのネットワーク会議、プロジェクトチームの設置

幼児期から高校まで各発達段階に応じ、一貫した性教育を実施することにより人としてのあり方・生き方の指導が必要

思春期保健実態調査（H13.7～12 県内産婦人科における10代の妊婦に対するアンケート）

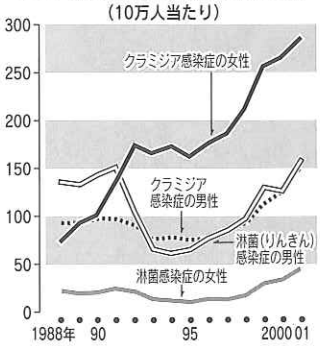


平成13年の栃木県10代の人工妊娠中絶件数は1047件!!

- 性感染症が若い女性を中心に年々増加。クラミジア感染症は、推定で19歳女性の13人に１人罹患（※りかん）していることが厚生労働省研究班の調査でわかっています。※罹患…病気にかかること。
- １人で悩まないで、女性は産婦人科・男性は泌尿器科へ。
- **相談機関**

  市健康課 ☎(60)3103
  思春期相談センター ☎028(632)0881
  思春期応援隊 ☎0282(87)2247
  まちの保健室 ☎028(624)1677

主な性感染症の罹患（りかん）率
（10万人当たり）



資料提供　栃木県県西保健福祉センター

「性に関する指導教室」の開催

北押原中学校

取り組みのきっかけは、県の教育委員会から、各中学校生徒に配布するよう渡された「ラブ&ボディブック」でした。三品養護教諭は、「直接生徒に渡して生徒たちが自分に都合のよい解釈をしてしまわないか」と疑問に思い、先生方と内容について検討し、学級活動の時間を利用して「性に関する講話」と題して、上都賀総合病院の福田環先生を講師に「性に関する指導教室」を開くことにしました。

講話の後、道徳の時間に「中絶」をテーマに性のあり方を考えてみました。

生徒たちは、真剣に考え、講話で学んだことをもとに自分なりに考えを持ったようです。

生徒の感想

男子　性行為は、自分の感情だけでなく、相手のことを考えたほうがいいと思った。男として相手と子どもを守っていける責任感を持とうと思った。

女子　正しい知識を身に付けて結婚してから性行為をすれば、女の人は自覚が出て、男の人は責任が持てると思った。

保護者の感想

自分の息子は軽はずみなところがあるので、性行為については親からいつか話さなくてはと思っていた。学校で講話を行ってくれたのでよかった。

教師の感想

性教育は発達段階に応じて学校教育に位置付けていかなくてはならない。来年度は、保護者にも参加してもらってはどうだろうか。

「家庭教育学級」に参加して

北中学校家庭教育学級
学級長　酒井俊子さん

丸山隆先生をお招きして、10代の性教育を親としてどのように対処すべきか見いだすための研修会でした。

性においては、「男女の間に差があり、命を消すことに対して男性はさほど傷つくことはないが、女性は消し去った罪責感や罪の意識がいつまでも消えることはなく、こけしや水子供養はその表われである。だからこそ男性は女性の体のことを考え、女性は自分の体を大切にすることを、そして命の大切さをしっかり子どもに話し自分の子どもが今どうなっているかをよく知っておくことが大事である」とのお話でした。私自身、性教育をしていくうえでとても大きな糸口を見つけられ、充実した時間を過ごすことができました。

お父さんや生徒の参加も見られ、この問題の関心度の高さを感じました。

思春期相談センター

思春期における健康づくりの支援の一環として、悩みや不安などについて気軽に相談できる場を確保・提供するため、同年代のピアカウンセラーや専門の相談員が相談に応じる思春期相談センターが宇都宮オリオン通り「109宇都宮店」4階に開設されています。

このセンターは、県の委託を受けてとちぎ思春期研究会が運営しています。

＊時　間　毎週土曜日・日曜日の午後1時～6時

まとめ

性について話し合いを

10代の中絶の増加や、初交年齢の低年齢化、性感染症の拡大、テレクラの問題など正しい知識を持たず、興味本位や欲望で性行動に走ってしまう若者たち。若者の「性」に対しての意識、行動に危機感すら感じます。

親子で「性」について話し合うことはなかなか難しい面もあるかもしれません。しかし、大人がきちんと向き合って、正しい知識を伝えてゆくことが大切です。

最近アメリカでは、性教育のあり方が根本から問い直され、「愛と人間の価値」「責任と抑制」を教えるプログラムに切り替わり、その結果、10代の妊娠と性感染症が減少することが確かめられたそうです。また10代の妊娠を防ぐ全国キャンペーン調査では、中高生の9割以上が「高校卒業までは、社会が責任を持って性への抑制を促すことが重要」と答えており、アメリカの性教育は大きく転換しているということです。

性教育は人間教育であり、小さいころから「愛と人間の価値」「責任と抑制」そして「男女平等の精神」を教育してゆくことはとても大切なことだと思います。

私たち大人も、大いに反省すべき点がありそうですね。

女性の海外研修に参加して

ネットワークを広く生かして

井田　順子（東町）

今回訪問したベルギー・フランス・ノルウェーは、古い歴史と文化がしっかりと息づく中、"今"を生きるための先進的な取り組みを世界に先駆けて行っている国です。

最初に訪れたベルギーでは、雇用の分野において男女が平等であるかを専門的に調査・研究し行政に報告している機関でした。

また、ノルウェーでは高齢者センターを訪問しましたが、今から20年も前に作られたとはまったく思えない整った施設の中で、1人ひとりのお年寄りが、ダンスや手芸や読書や洗濯、スイミング、研磨作業等、どの人も必ず何かをして時間を過ごしていた姿が非常に驚きであり、日本の施設との違いを感じました。

フランスでは、3泊4日でホームステイを体験しました。すべての食事をご主人の手料理でもてなしてくださり、仕事を持つ奥様と家事をうまく分担されて、互いに助け合い夫婦として生活する意味を私に教えてくれました。

今回10日の研修で3ヵ国もの施設を訪問し、その国に生きる人々の文化や生活に触れられたことは、貴重な財産であり、同じ経験でできた県内各地の仲間と、今よりもっと深く、広がりのある活動をするための足がかりができました。このネットワークを生かして次なる活動につなげていきます。

ひとくちメモ　性感染症

性行為により感染する病気をさし、STDともいい、昔からある病気です。

症状がなく、知らない間にうつしあうこともあります。最近、クラミジア感染症が問題になっています。放置すると不妊症や子宮外妊娠の原因になったりします。

かぬま市民のつどいが盛大に開催

1月18日(土)、市民文化センターにおいて、鹿沼市女性団体連絡協議会と鹿沼市が主催する、「男女共同参画社会をめざすかぬま市民のつどい」が盛大に開催されました。

今回は、落語家であり、教育評論家である桂文喬さんの「笑顔、いつも心に　男女共同参画社会をめざして」と題した講演が行われました。

ユーモアあふれるお話に、会場は笑いの渦に包まれ、みんなで楽しく男女共同参画社会について考えました。

標語入選者発表

男女共同参画社会をめざす標語を募集したところ、たくさんの応募ありがとうございました。

次のみなさんが入選され、市民のつどいの席で表彰されました。

最優秀賞

「始めよう　男女の参画　家庭から」

松永　芳子さん／見　野

優秀賞

「認めあう　男女で築く　よりよい社会」

白石　洋さん／坂田山

「男女参画家事仕事　食卓かこみ会話がはずむ」

大柿　フミさん／見　野

「広げよう　男女の参画　互いの理解と協力で！」

松永　君子さん／上野町

編集後記

誰でも気になる「性」の問題。ところが実際にはあまり真剣に取り組もうとしない現状があります。見つめあい、語り合うことによってますますその重要さを感ぜずにはいられなくなりました。

記事についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。

〈編集〉ボランティア編集員　〈発行〉鹿沼市　〒322-8601　鹿沼市今宮町1688-1　☎0289(63)2232